

# 2018年3月期 第3四半期連結決算ハイライト

阪和興業株式会社

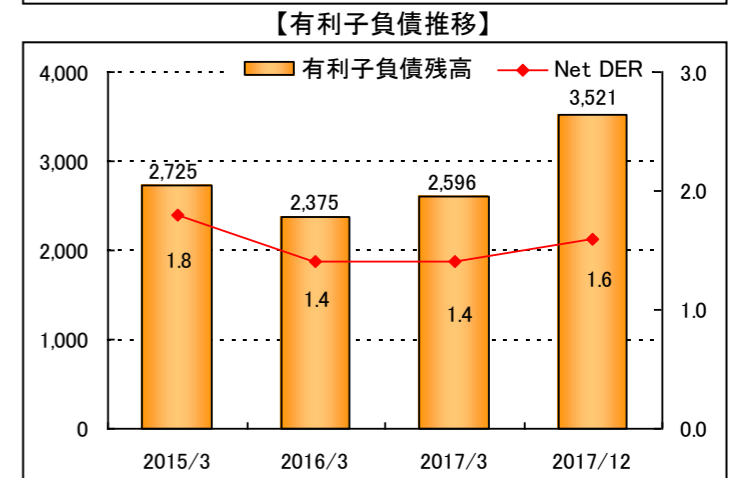
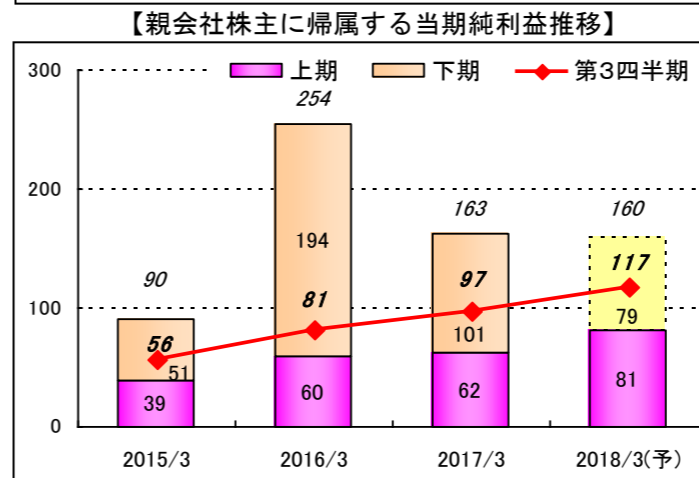
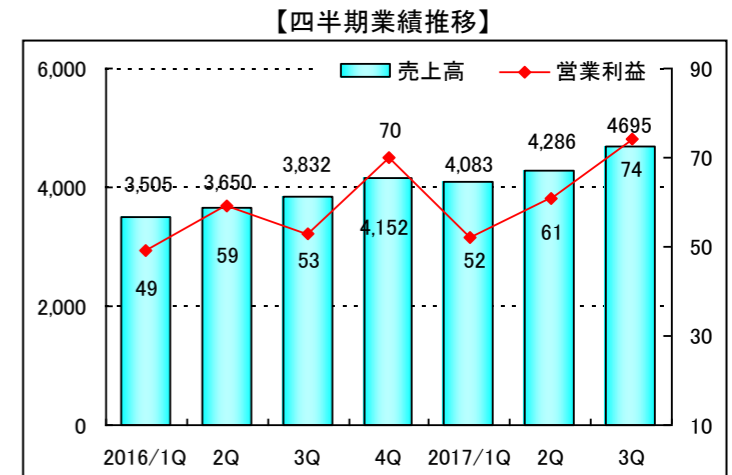
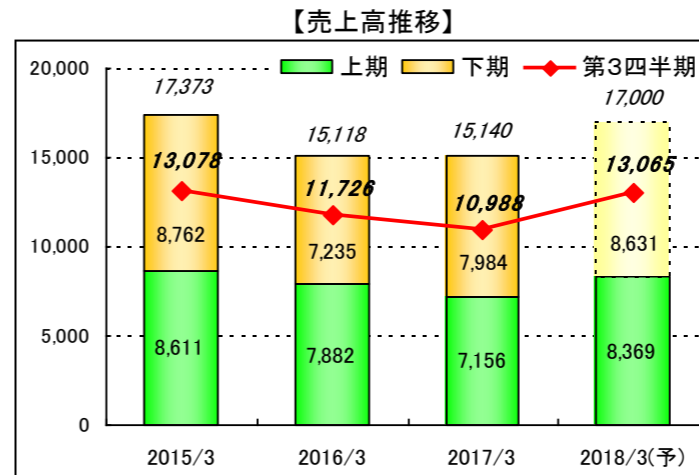
(単位：億円 億円未満切捨て)

## 2018年3月期 第3四半期決算の概要

・本年度第3四半期決算は、鋼材や金属資源の価格が前年同期に比べ高い水準にあったことなどにより、売上高は前年同期比19%増の1兆3,065億円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、金属原料事業の営業利益増加に加えて、前年同期の為替差損が差益に転じたことなどから、前年同期比21%増の117億円となりました。  
 ・中間配当は12月に10円を実施、期末配当は50円（※2017年10月1日実施の5株を1株にする株式併合に伴う10円予想の表示変更）を予定しております。

経営成績	当第3四半期 (累計)	前第3四半期 (累計)	前年同期比		主な要因
			増減	増減率	
売上高	13,065	10,988	2,077	19%	(売上高) 前年度後半から上昇傾向に転じた鋼材や金属資源の価格水準が前年同期に比べ高いレベルにあったことから、前年同期比19%の増加となりました。  (販管費) 前年同期比で約39億円の増加となり、その内、新規連結した子会社の影響は約15億円でした。また、人件費は約15億円（内、新規連結子会社分約6億円）の増加となりました。  (営業外損益) 営業外収益は為替差益の発生他、受取利息や受取配当金の増加などにより、64%の増加となりました。営業外費用は持分法投資損失や支払利息の増加などにより、47%の増加となりました。  (特別損益) 特別利益は関係会社の事業整理に伴う損失が想定より少なかったことから、過年度の引当金の戻り益を計上しました。特別損失は譲渡した子会社の出資金について、評価損を計上しました。
売上総利益	527	463	64	14%	
販管費	339	299	39	13%	
営業利益	187	163	24	15%	
営業外収益	42	25	16	64%	
営業外費用	56	38	18	47%	
経常利益	173	150	23	15%	
特別利益	5	5	△0	△2%	
特別損失	1	3	△1	△45%	
税引前四半期純利益	176	152	24	16%	
法人税等	66	54	11	22%	
四半期純利益	110	97	12	13%	
親会社株主帰属分	117	97	20	21%	
非支配株主帰属分	△6	0	△7	—	
E P S	289.14円	237.74円	51.40円	22%	
四半期包括利益	154	126	28	23%	

財政状態	当第3四半期末	前期末	前期末比		主な要因
			増減	増減率	
総資産	8,934	6,942	1,992	29%	(総資産) 売上債権や投資有価証券の増加などにより、前期末比29%増となりました。 たな卸資産 1,311億円 (前期末比 +18%) 投資有価証券 1,056億円 (前期末比 +46%) (内、関係会社株式 476億円 (前期末比 +247%))  (負債) 仕入債務や長短借入金の増加などにより、前期末比33%増となりました。有利子負債も約36%増加し、ネットDERは1.6倍となりました。  (純資産) 日本南ア・クロムの非支配株主持分が増加したことや四半期純利益からの積み上がりなどにより、前期末比15%増となりました。自己資本比率は、前期末比△4.1ポイントの20.4%となりました。
(流動資産)	6,730	5,377	1,352	25%	
(固定資産)	2,204	1,564	639	41%	
負債	6,968	5,225	1,742	33%	
(グロス有利子負債)	3,521	2,596	924	36%	
(ネット有利子負債)	2,985	2,312	673	29%	
Net DER	1.6倍	1.4倍	0.2倍	14%	
純資産	1,966	1,716	250	15%	
(株主資本)	1,673	1,597	76	5%	
(その他の包括利益累計額)	150	107	43	41%	
(非支配株主持分)	142	12	130	—	
B P S	4,489.34円	4,193.50円	295.84円	7%	
自己資本	1,824	1,704	120	7%	
自己資本比率	20.4%	24.5%	△4.1pt	—	



セグメントの状況	売上高			セグメント損益(経常損益)			主な要因
	当第3四半期	前第3四半期	増減率	当第3四半期	前第3四半期	増減率	
鉄鋼	6,721	5,667	19%	153	130	17%	(鉄鋼) 鋼材需要は回復基調を維持。原料高と需給のタイト化による鋼材価格の上昇により増収に、紐付き取引中心に利幅が拡大し、増益となりました。 (金属原料) 合金鉄価格の上昇とステンレス母材、合金鉄の拡販などにより増収に、損益面では販売益の増加に加え前期赤字の昭和メタルの損益回復も寄与しました。(非鉄金属) 国際価格上昇や鋼スクラップの販売増により収益は増加、前年同期の為替差損が差益に転換したことも増益に寄与しました。 (食品) 海外産地の低調な水揚げや在庫減少による価格上昇と堅調な販売により増収となったものの、仕入コスト上昇による利幅の縮小から減益となりました。 (石油・化成品) 製品価格は緩やかに上昇も、スポット取引の大幅な減少により減収に、前年同期に高採算だった輸入日用雑貨品の利幅縮小により、減益となりました。 (海外販売子会社) シンガポールでの船用石油やタイ・シンガポールでのスクラップ拡販、インドネシア・中国・北米での鋼材販売増が収益を押し上げました。
金属原料	1,490	953	56%	12	△8	—	
非鉄金属	715	570	26%	9	1	401%	
食品	794	703	13%	12	23	△45%	
石油・化成品	1,732	1,947	△11%	14	18	△19%	
海外販売子会社	1,627	1,245	31%	6	△7	—	
報告セグメント計	13,082	11,087	18%	209	158	32%	
その他	572	560	2%	5	14	△65%	
合計	13,654	11,647	17%	214	172	24%	
調整額	△589	△659	△11%	△40	△22	△84%	
PL計上額	13,065	10,988	19%	173	150	15%	

通期の見通し	通期業績予想	前期実績	対前期増減率
売上高	17,000	15,140	12%
営業利益	255	234	9%
経常利益	240	229	5%
親会社株主に帰属する当期純利益	160	163	△2%

配当の状況	前期実績	当期実績	当期予想
中間期	9.00円	10.00円	—
期末	10.00円	—	50.00円 (株式併合後)
年間配当	19.00円	—	—
配当性向	24%	—	25%

トピックス  
 ・4月 炭酸リチウム製造のBacanora Mineralsへ出資  
 ・5月 クロム鉱石採掘、フェロクロム製造のSamancor Chrome Holdingsに追加出資  
 ・10月 コンクリート二次製品向け特殊金具製造業のジャパンライフを子会社化